静岡薬剤耐性菌制御チーム通報 195　　2026.1.1

2025 年の静岡県における感染症の話題

静岡薬剤耐性菌制御チーム

2025 年も感染症診療に関する、情報共有をさせていただきました。行政機関、医師会、医療機関のご協力により定期的に通報発行ができており、関係者の皆様に感謝申し上げます。今までの内容については、WEB サイトで確認することができます（https://hamamatsushi-naika.com/index.cgi?page=team）。今回は、それらを顧みるとともに、現況について記しました。

1. インフルエンザ

2024 年 12 月中旬から 2025 年 1 月にかけて、インフルエンザの大流行がありました。COVID-19 流行中に、インフルエンザが少なかったことがあり、予防接種をしていない方も多く、流行のピークが年末年始にかかったことから、各施設の対応も大変であったと思います。今期の流行は、例年より 1 か月ほど早く、予防接種が間に合わなかった方が多いようです。東京、大阪など流行地域への移動歴、学生では各種競技会、修学旅行などが流行の契機になっています。ここ 2 年では B 型が少なく、今後の流行の可能性もあるため、A 型に罹患した方もワクチン接種の必要はあると思われます。インフルエンザワクチンは、感染予防の効果もありますが、重症化を防ぐ目的が大きいです。

従来の不活化ワクチンの 4 倍の抗原量を有する高濃度インフルエンザワクチンは、2026 年 10 月からは 75 歳以上の定期接種に組み込まれる予定です。海外では高齢者において高用量インフルエンザワクチンが、従来用量のワクチンと比べてインフルエンザよる入院を減少させるという報告があります [1),2)]。総死亡率に差はありませんが、インフルエンザによる入院の減少は、流行期の医療機関の負担を減らすという利点もあります [3)]。定期接種に組み込まれるにあたり、今後のデータに注目をしておきたいところです。Nucleoside-modified mRNA ワクチンについては、A 型インフルエンザにおいて従来のワクチンに比して有効性が示されましたが、発熱、局所反応が高かったとされています [4)]。

2. 百日咳

2025 年は記録的な流行となりましたが、成人や年長児童では対症療法で軽快することもあり、医療機関を受診されていないケースもあると考えられます。年齢分布では 10～14 歳が最多で、続いて 5～9 歳が多くなっています。治療薬はマクロライド系抗菌薬が第一選択でしたが、本邦でもマクロライド耐性百日咳菌感染症例が報告されています [5)]。基礎疾患のない年長児童や成人では、耐性菌であっても自然軽快し

ますが、新生児、乳児、基礎疾患のある小児では、致死的になることがあります。マクロライド耐性百日咳菌に対しては、ST 合剤が選択されますが、新生児、低出生体重児や妊婦には禁忌であること、保険適応ではないことに留意が必要です。成人や年長児童においては、発熱が少なく、咳嗽のみで休むことが少ないことから、流行が拡大する一つの理由になっています。任意接種になりますが、DT2 期の DPT への変更、妊婦への DPT 接種を考慮し、流行拡大を防ぐことが必要です。

3. マダニ媒介感染症

12 月 26 日(2025 年 51 週)現在、2025 年の静岡県内のマダニが媒介する感染者は、重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS）が 13 人、内 3 人が死亡、日本紅斑熱が 28 人、内 1 人が死亡となり、いずれも過去最多となっています(図 1)。野生動物がヒトの居住地域近くに出没することが増えたほか、ペットからの感染も増加の一因となり得ます。野山、草叢での作業、刺した後の痂皮の確認が教科書的には記載されていますが、報告例の中には、明らかでないものが見受けられます。露出された肌ではマダニを確認することもありますが、服の内部、折目ではわかりにくく、腋窩、鼠経～股部では注意深い観察が必要になります。SFTS は発熱、頭痛、消化器症状など非特異的な症状で発症するので、不明熱の一因としても留意する必要があります。また CRP が正常範囲にとどまることが多く、顕微鏡的血症が多くの例で認められるとされています [6]。4 類感染症ですので、診断した場合は直ちに最寄りの保健所に届け出る必要があります。2025 年 11 月 21 日に新しい手引きが発行されていますので、ご参照ください [7]。

図 1 静岡県の SFTS 患者数の推移（一部改）
https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/065/251118madani.pdf

ワクチンについては、2026 年度からは妊婦を対象とした RSV ワクチンの公費補助や高齢者肺炎球菌ワクチンの変更の可能性などが話題になっています。これらの情報は、自治体や院内での情報共有もされているところですが、AAS でもできるだけ早くお伝えできるように活動をさせていただきたいと思います。

1) Johansen ND, et al.: High-Dose Influenza Vaccine Effectiveness against Hospitalization in Older Adults. N Engl J Med. 2025 Aug 30. [e-pub] PMID:40888720
2) Pardo-Seco J, et al.: High-Dose Influenza Vaccine to Reduce Hospitalizations. N Engl J Med. 2025 Dec 11;393(23):2303-2312
Epub 2025 Aug30.PMID:40888694
3) Johansen ND, et al.: Effectiveness of high-dose influenza vaccine against hospitalisations in older adults (FLUNITY-HD): an individual-level pooled analysis. Lancet. 2025 Nov 22;406(10518):2425-2434. PMID:41115437
4) Fitz-Patrick D, et al.: Efficacy, Immunogenicity, and Safety of Modified mRNA Influenza Vaccine. N Engl J Med. 2025 Nov 20;393(20):2001-2011.PMID:41259756
5）https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/IASR/Vol46/543/543p01.html
6)忽那賢志：第八話　感染症道場破りシーズン 1 104-119. 中外医学社　2025
7）重症熱性血小板減少症候群の手引き 2025 年版
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001598839.pdf